

専攻科だより

生産システム工学専攻・第二期生入学 -

専攻科長 中 哲夫

生産システム工学専攻主任 葛目 幸一

海上輸送システム工学専攻主任 高岡 俊輔

平成18年4月6日に本科と専攻科(生産システム工学専攻)の入学式が本年度から合同で挙行され、生産システム工学専攻の第二期生として8名が入学しました。平成17年4月に弓削商船高専に念願の専攻科が設置され、4月に生産システム工学専攻の入学式が挙行され、第一期生として8名、10月に海上輸送システム工学専攻の入学式が挙行され10名が既に入学しています。今回の生産システム工学専攻の入学により、専攻科の3/4のクラスが揃うこととなり、本年10月の海上輸送システム工学専攻の入学式にて専攻科生、全員が揃うこととなります。今後は、弓削商船高専・専攻科ならではの特色や地域性を生かした、新しい高度専門技術者教育が本格化するものと期待されています。

校長の式辞の概要は次の通りであった。

『専攻科では、7年一貫の高度技術者養成教育(学士教育)が行われます。この制度の下では、受験勉強に煩わされることなく学生生活に打ち込めます。さらに、専門科目と基礎および教養科目をくさび形に組み合わせ、技術者教育および人間教育が行われている点もこの制度の特徴です。その他、高専の大きな特徴は、講義で知識を修得するだけでなく、実験・実習・実技を多くして、体験的に技術・技能を学ぶことを重視していることです。専攻科は高校+大学とは大きく異なります。高専の歴史は約40年余りですが、卒業生は専門的知識、実践的技術力において、大学卒と遜色なく、また、専攻科卒は大学院修士レベルの実力を付けていると、高い評価を頂いています。このような、早期技術者教育で成功を収めている高等教育機関は珍しく、高専はだんだん世界から注目されつつあります。専攻科入学生諸君にもう一言申します。今世紀に入り、IT革命が進む中、科学技術はますます高度化かつ多様化・複雑化しています。また、環境問題、技術の安全性など解決すべき諸問題が顕在化しています。このため技術者の資質に対する要請もますます高くなってきました。また、グローバル化は商品の基準や品質のみならず、技術的サービスの基にまで及び、国際的基準によって認証された能力のある人材を求めています。専攻科では、本科で培った学術の上に、さらに高い技術を修得することとなります。講義や研究指導も高度になります。チャレンジ精神を旺盛にして頑張ってください。特に、自ら考える力、調査・分析力、ディスカッションやプレゼンテーション能力、論文作成力、語学力を高めてください。また、若い柔軟な頭で創造性を発揮して、特許など知的財産権の獲得に意欲的であって貰いたいと思います。』

専攻科在校生の近況

専攻科は学年制ではなく、単位制ですので2年間で62単位以上修得すれば修了です。(ただし、授業料等は本科と同じです)生産システム工学専攻の学生8名中4名は既に就職活動を行っています。他の4名は大

学院進学予定です。海上輸送システム工学専攻においても入学してまだ半年ですが就職試験が始まっています。



専攻科一期生(1名は入社試験)

専攻科の入学試験

本専攻科では、19年度入学生の入学試験を次のような日程で行います。

(1) 海上輸送システム工学専攻

推薦: 9月7日(願書: 8月28日~9月1日)

学力: 9月15日(願書: 8月28日~9月1日)

平成19年6月中旬

(2) 生産システム工学専攻

推薦: 6月12日(願書: 5月29日~6月2日)

学力: 6月23日(願書: 5月29日~6月2日)

9月15日(願書: 8月28日~9月1日)

11月9日(願書: 10月30日~11月2日)

社会人: 11月9日(願書: 10月30日~11月2日)

生産システム工学専攻(第二期生)

1. 天野正章(機械系)
2. 金本健児(機械系)
3. 亀田幸作(情報系)
4. 黒瀬隆宣(機械系)
5. 富田宣也(情報系)
6. 村上弘治(機械系)
7. 矢野沙季(情報系)
8. 渡邊文浩(情報系)



生産システム工学専攻・第二期生